



平成 30 年 4 月 24 日

## 兵庫県内経済情勢報告 (平成 30 年 4 月判断)

### 1. 総論

#### 【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回 (30 年 1 月判断)	今回 (30 年 4 月判断)	前回比較
総括判断	回復しつつある	緩やかに回復している	

(注) 30 年 4 月判断は、前回 1 月判断以降、4 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### (判断の要点)

個人消費は緩やかに回復しつつあるほか、生産活動は緩やかに回復しつつあり、雇用情勢は着実に改善しているなど、全体としては緩やかに回復している。

#### 【各項目の判断】

項目	前回 (30 年 1 月判断)	今回 (30 年 4 月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	
雇用情勢	改善している	着実に改善している	
設備投資	29 年度通期は前年度を上回る計画となっている	29 年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	29 年度通期は増益見込みとなっている	29 年度通期は増益見込みとなっている	

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果を背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、企業活動などに影響を与える国内外需要の動向、海外経済の不確実性、為替の影響等に留意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパーは、厳しい寒さにより客足が鈍るなどの影響があったものの、高級時計などの高額品が好調であり、さらに3月は好天候により春物衣料が動き出したことなどから好調であった。また、野菜が相場高となっていたものの冷凍野菜や惣菜などの食料品が堅調に推移したことなどから、販売額は底堅く推移した。ショッピングセンターは販売額が前年を上回った。

コンビニエンスストアは、健康志向の商品のほか、カウンター商品や冷凍食品、総菜などの即食性のある商品が好調であり、販売額は前年を上回った。

ドラッグストアは、化粧品や日用品などが好調であったほか、訪日外国人向けに化粧品や医薬品、健康食品などが好調であり、販売額は前年を上回った。

家電大型専門店は、高付加価値の大型白物家電や格安スマートフォンなどが好調であり、販売額は前年を上回った。

乗用車の新車登録届出台数は、小型車が低調であったものの、普通車や軽自動車为好調であったことから、前年を上回った。

その他、温泉地の旅館において国内客及び訪日外国人の利用がともに好調であり、稼働率は高水準で推移した。

このように、個人消費は堅調な状況が続いており、全体として緩やかに回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 年始セールは重衣料が不振であり、また寒さが厳しいことや冬季五輪開催で来店者数が減ったものの、3月は気候が良かったため一気に衣替えが進み好調。高級時計など高額品も好調。消費者層別では、富裕層の消費が好調であったほか、共働き世帯の増加などにより30~50歳代の現役世代の消費が堅調。(百貨店・大企業)
- 野菜の相場高により、価格の変動がなかったカット野菜や冷凍野菜、惣菜が好調。また、鮮魚が好調であったほか、健康志向により高タンパクの牛赤身肉も好調。衣料は2月後半から春物などに動きが出てきた。(スーパー・大企業)
- 化粧品が好調であるほか、シャンプーなどの日用品のパーソナル化が進んでおり、高品質・高価格の商品が好調。都市型店舗では、周辺にスーパーが少ないことやコンビニより安価であることから、マンション居住者などに食料品の需要が高い。また、単身世帯や働く女性の増加が売上増加に寄与。(ドラッグストア・大企業)
- 1、2月は気温が低く春物衣料の動きは鈍かったが、3月に入り動き出した。また、働く女性の増加によりジャケットやスーツが好調。インターネット通販(EC)の売上はスマホの普及も背景にして毎年10%近く増加。店舗とECはうまく共存し相乗効果がみられていると感じる。(卸売・大企業)
- 来訪者は全体で増加。インバウンドも昨年よりやや増加し高水準で推移。景気が回復している影響なのか、スタンダードの宿泊プランより部屋や食事をワンランク上げた料金プランを選ぶ人が増えてきたと感じる。(宿泊)

#### ■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

鉱工業指数(生産)は、はん用・生産用・業務用機械や電気機械などが上昇しているものの、輸送機械や化学などが低下していることから、全体の指数は低下している。そのようななかでも、自動車関連部品や産業用の工作機械、建設機械関連の需要が堅調であり、先行きについてもこれらの分野において引き続き需要が見込まれるとの声が企業から聞かれている。

このように、生産活動は堅調な状況が続いており、全体として緩やかに回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 工作機械について、国内は自動車関連向けが、海外はアジア、欧米向けに自動車、航空機関連向けが好調。加えて、建設機械関連は国内、アジア、米国向けに伸びている。自動化、省力化に資する製品の需要もみられている。(生産用機械・大企業)
- 電気自動車などの自動車関連の工作機械向けの制御装置が国内、中国、米国向けに好調。また、プラスチックトレイなどの熱成形機向けも国内・海外ともに好調であるほか、スマホ向けなどの電子部品材料関連の需要も好調。(業務用機械・中小企業)

- ハイブリッド車用の電動化製品の需要が国内、海外ともに増加傾向にある。(電気機械・大企業)
- 鉄鋼やアルミについては国内・海外ともに自動車関連向けが好調であるほか、銅板も半導体関連向けに堅調。産業機械や建設用機械は、中国国内の排ガス規制による駆け込み需要の反動があったものの、堅調な状況が続いている。(鉄鋼・大企業)
- 2月は東京での降雪や冬季五輪の開催中に外出が減ったことなどにより客足が遠のき、販売が伸び悩んだ。バレンタインデーの需要は前年並み。お中元やお歳暮などのギフト需要は年々減少している。(食料品・大企業)

## ■ 雇用情勢 「着実に改善している」

有効求人倍率は1.38倍(30年2月)と、43年ぶりの高水準で推移しており、また、就業地別の有効求人倍率で見ると1.49倍となっている。さらに、新規求人数、有効求人数はともに増加傾向にあるなど、雇用情勢は着実に改善している。なお、法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)をみると、従業員数判断BSIは「不足気味」超となっている。

### (主なヒアリング結果)

- 雇用情勢は緩やかな右肩上がりでの改善が続いている。介護分野では施設の新設が盛んで求人が増加しており、建設業も有効求人倍率が依然として高い。自動車関連は足下ではやや落ち着いたものの依然として求人が出ており、様々な関連業種から求人が出ている。(公的機関)
- 人手不足の状況であり、機械の稼働率を上げるためにひとりが複数台の機械を動かせるよう、社員教育にしっかり取り組んでいる。(業務用機械・中小企業)
- 料理人と仲居が不足している。働く環境の整備のため、旅館の定休日を設けており、また、空き家をリノベーションして従業員のための寮を設置した。(宿泊・中小企業)
- 人手確保のためには働く環境も重要と考え、従業員がリフレッシュできるスペースを充実させるなど、良い環境づくりに取り組んでいる。(百貨店・大企業)

## ■ 設備投資 「29年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」30年1~3月期

法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)をみると、29年度通期の設備投資は、製造業では食料品などが前年度を上回り、非製造業では運輸、郵便などが前年度を上回ることから、全産業では前年度を上回る見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「29年度通期は増益見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」30年1~3月期

法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)をみると、29年度通期の経常利益は、製造業では鉄鋼などが増益見込みとなっており、非製造業では運輸、郵便などが増益見込みとなっていることから、全産業では増益見込みとなっている。

### 【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数で見ると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額で見ると、前年を下回っている。
- **輸 出** 神戸港の通関実績(円ベース)で見ると、輸出は、米国向けに住宅建設用の建機や、中国向けに高価格帯の高級化粧品などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。
- **企業金融** 法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)をみると、資金繰り判断BSIは全産業で「悪化」超となっている。また、金融機関の融資態度判断BSIは全産業で「緩やか」超となっている。
- **企業倒産** 企業倒産件数を3か月平均で見ると、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査(30年1~3月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについて、30年4~6月期は「下降」超で推移し、30年7~9月期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

(注)本文中、大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1億円未満の企業をいう。